

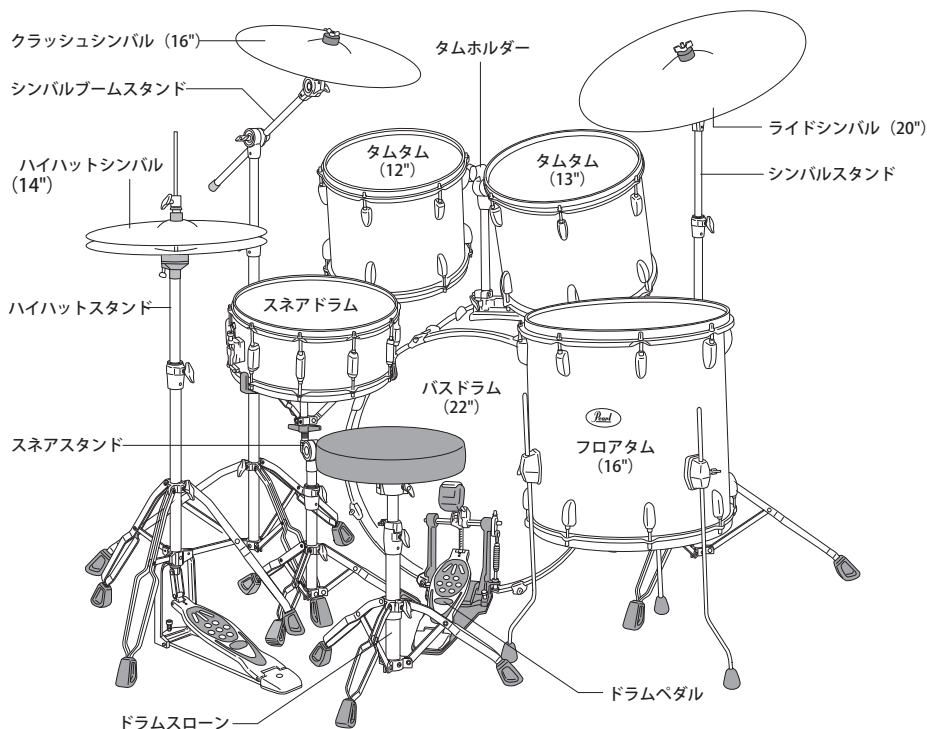
PEARL DRUMS

FORUM

FZ

取扱説明書

このたびは、パールドラムスをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に、ぜひこの取扱説明書をご覧ください。



ドラムセット完成図

パッキングリスト

バスドラム	x1	ハイハットスタンド	x1	ドラムスローン	x1
タムタム	x2	スネアスタンド	x1	ハイハットシンバル	x2
フロアタム	x1	シンバルスタンド	x1	ライドシンバル	x1
フロアタムレッグ	x3	シンバルブームスタンド	x1	クラッシュシンバル	x1
スネアドラム	x1	ドラムペダル	x1	スティック	x1
タムホルダー	x2	ドラムスローン	x1		

バスドラムの組み立て

1. バスドラムのフロント側（バスドラムスパーのついてる方）を上にしてシェルを床に置き、パール・ロゴのあるヘッドをかぶせ、バスドラムフープを（平らな方を下にして）のせます（図1）。

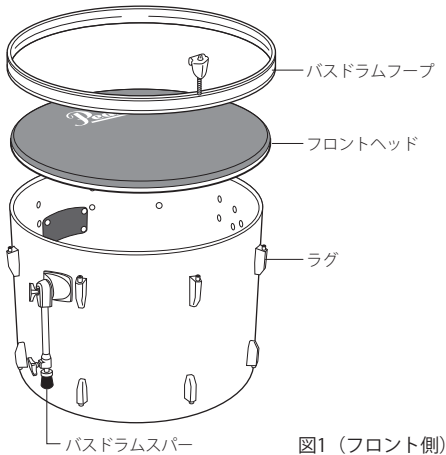


図1（フロント側）

3. バスドラムの打面側を上にして、フロント側と同様、ヘッド、フープを取り付け、テンションボルトをフックを通してラグのラグナットにネジ込みます（図3）。その際、フーププロテクターがバスドラムの下側になるようフープの位置を調整してください（図4）。このフーププロテクターは、ペダル本体を安定させるのに役立ちます。

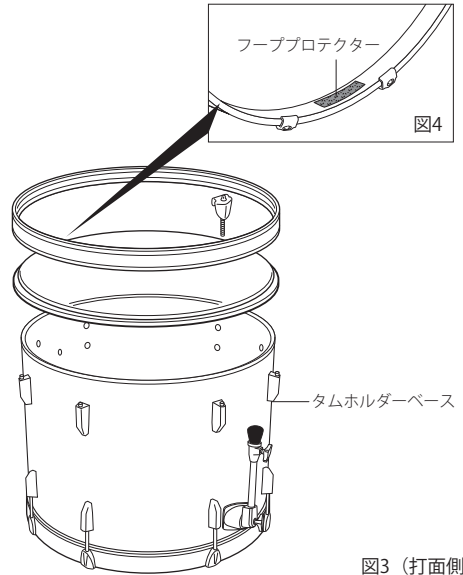


図3（打面側）

▲ 注意

フロント側には、フーププロテクター(図4)がついていないフープをご使用ください。

2. フックにテンションボルトを通し、ラグのラグナットにネジ込みます（図2）。

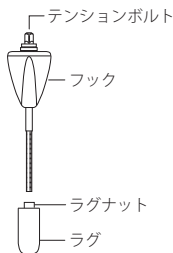


図2

4. タムホルダーベースが上になるよう、バスドラムをおき、左右のバスドラムスパーを出します。左右のスパーが同じ長さになるようにし、必要に応じて剣先を出して下さい（図5）。（剣先を出した場合、床を傷つける場合がありますので、ご注意ください。）

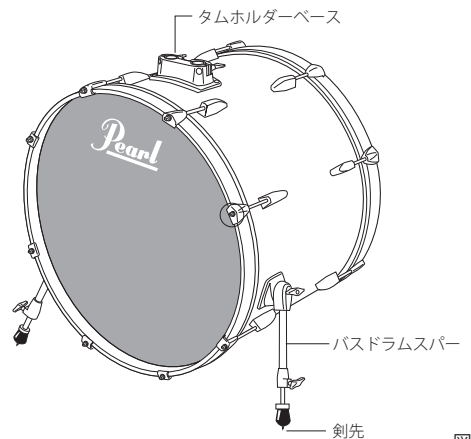


図5

フロアタム / タムタムのセッティング

フロアタムとタムタムは、シェル（胴）本体、フープ、ヘッドが別々に梱包されていますので、下記の順に組み立てて下さい。

1. 打面側を上にしてシェルを床に置き、ヘッドをかぶせ、スチールフープをのせます (図 6)。
2. スチールフープにテンションボルトを通し、ラグにネジ込みます (図 6)。
3. ボトム側 (フロアタムはレッグブラケットのついている方) を上にして、打面側と同様、ヘッド、フープを取り付け、テンションボルトをスチールフープを通してラグにネジ込みます。
4. フロアタムは付属のフロアタムレッグをレッグブラケットに差し込み、ウイングボルトで固定します (図 7)。

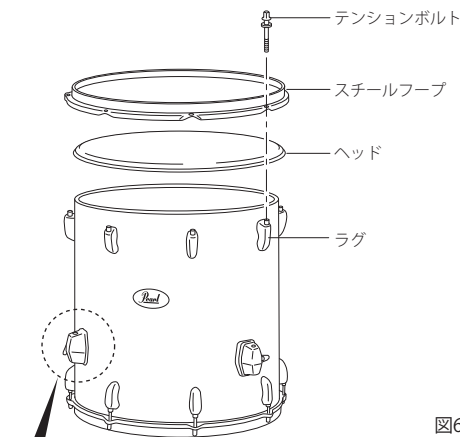


図6

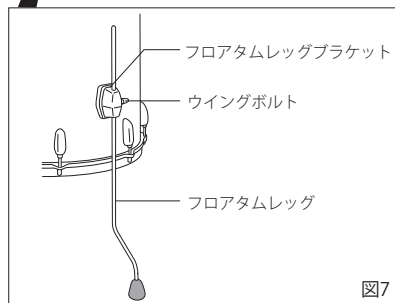


図7

I.S.S. のセッティング

タムタムには、I.S.S. マウンティング・システムが標準装備されています。この I.S.S. は簡単に取り外しがき、ヘッド交換を容易にします。

取り付けの際は、下記の説明をご覧ください。

I.S.S. 本体フックのキーボルトを緩め、図のようにタムの上部フープにフックを引っ掛けてください。

ベースプレートをフープのエッジの下にはめ、I.S.S. が二つのチューニングロッドの中間に来るように位置を調整し、キーボルトを締めて固定します (図 8)。

これで、I.S.S. の取り付けは完了です (図 9)。

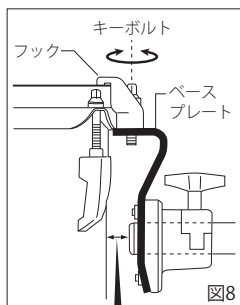


図8

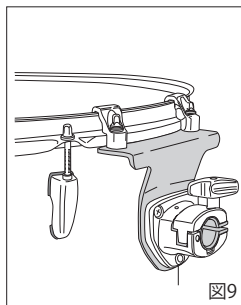


図9

⚠ 注意

シェルを傷つけるのを避けるために、タムホルダーと、シェルが直接触れないように気を付けてください。

タムタムのセッティング

2 つのタムタムを、タムホルダーでバスドラムのタムホルダーベースに取り付けます。タムホルダーには回転、ズレ防止のためのリングストッパーがついているので、タムタムの位置や角度が決まったらロックしましょう。また、リングストッパーを一度固定しておけば、次からのセッティングが大変スムーズになります (図 10)。(ドラムセット完成図を参照)

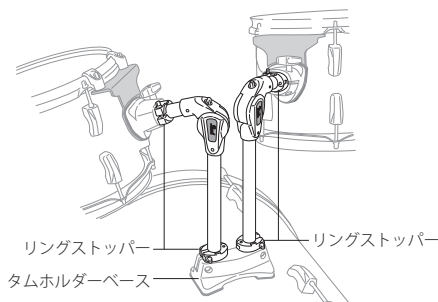


図10

スネアドラムのセッティング

脚部を適度に開き、スネアスタンドのバスケット部(上部)を十分に広げ、スネアドラムをのせてからハンドルナットで固定します。その際、ストレイナー(スイッチ)は左手で自由に操作できる位置にしておきます(図11)。

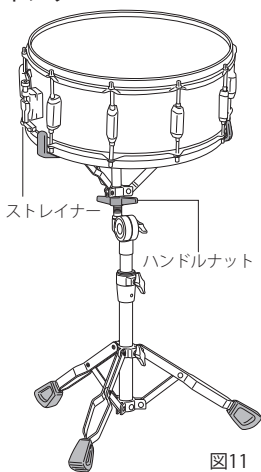


図11

ドラムペダルのセッティング

ドラムペダルのスプリングのフックをカム・ローラーに引っ掛け、ピーターのシャフトをピーターホルダーリンクの穴に差し込み、チューニング・キー(図12)でキーボルトを締めて固定します。次に、ペダルの下にあるフープクランプ部でバスドラム・フープをはさみ込み、ハンドルボルトで固定します(図13)。ペダルを踏み込み、スプリングのテンションを好みに合うよう、上下のナットで調節して下さい。

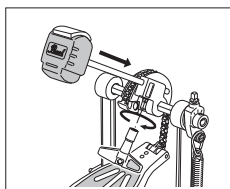


図12

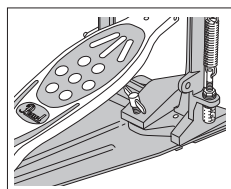
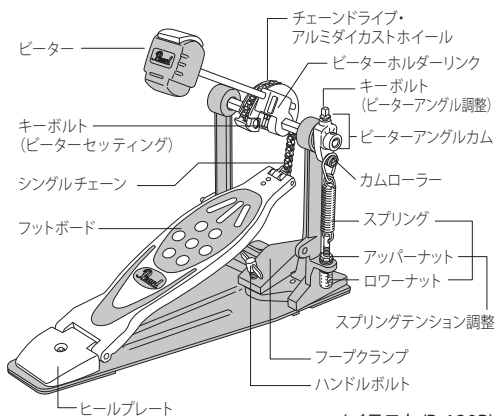


図13



(イラスト/P-120P)

ハイハットスタンドのセッティング

フットボード&脚部のセッティング

脚部を適度に開き、フットボード下のラジャスロッドの先端(左右とも)をメインポストの接続部(穴)に差し込みます。メインポストが垂直に立っている事を確認したら、ウイングボルトを締めて、脚部を固定します(図14)。

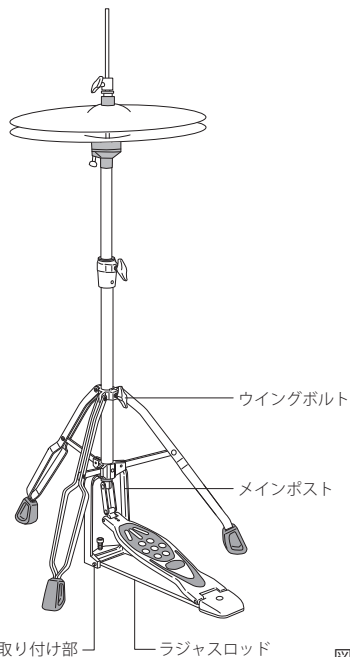
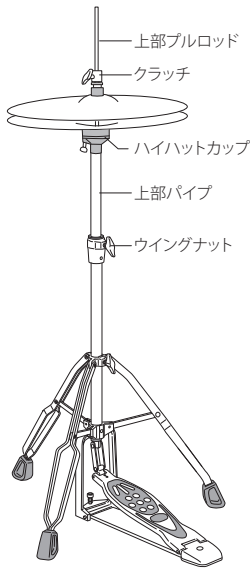


図14

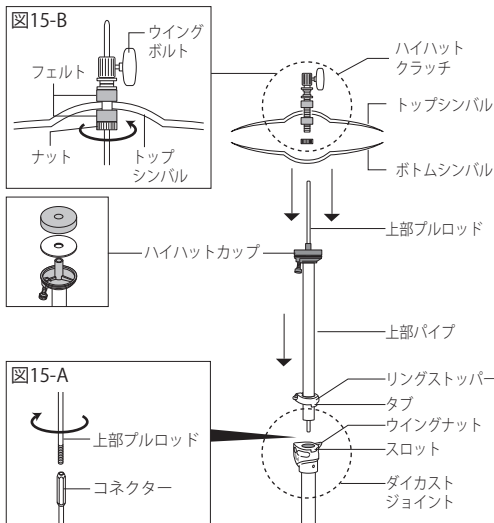
ラジャスロッド取り付け部
ラジャスロッド

ハイハットスタンド 上部の組立て

脚部のダイカストジョイント内のプルロッド先端コネクターに、上部のプルロッドを差し込み、止まるまでネジ込みます (図 15-A)。上部パイプにリングストッパーがある場合は、キーボルトを緩め、脚部に上から差し込み、好みの高さで調整してダイカストジョイントのウイングナットで固定します (リングストッパーがある場合は、ダイカストジョイントまでずらし、リングストッパーのタブとダイカストジョイントのスロットを合わせてキーボルトを締めてください)。2枚のハイハットシンバルの内、ボトム用シンバルをカップに乗せます。トップ用シンバルはハイハットクラッチの2枚のフェルトの間にはさみ、ナットで下から固定し、プルロッドに上から差し込みます (図 15-B)。シンバルの間隔を調整するには、フットボードのペダルを踏み込み、上下のシンバルに適度な隙間ができる位置でハイハットクラッチのウイングボルトを締めてください。



(イラスト/H-70W)



シンバルスタンド / ブームスタンドのセッティング

脚部を適度に開き、ウイングボルトを締めて脚部を固定し、ダイカストジョイントに中間パイプを差し込み、ウイングナットで固定します。さらに、上部パイプを中間パイプのダイカストジョイントに差し込み、ウイングナットで固定します。ブームギア、ティルターを調節してシンバルをお好みのポジションにセッティングします (図 16)。

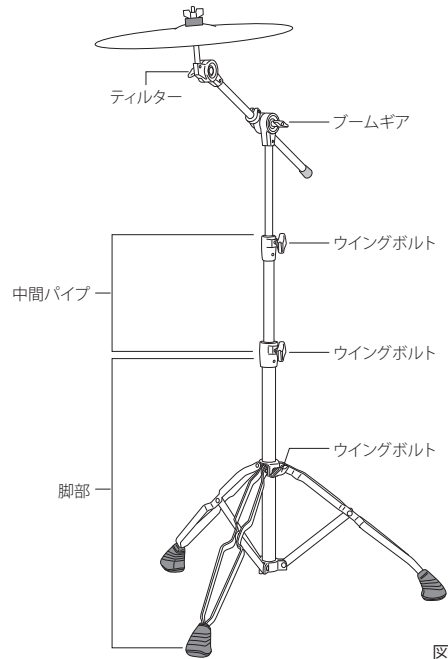
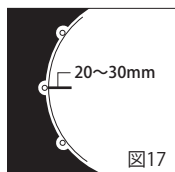
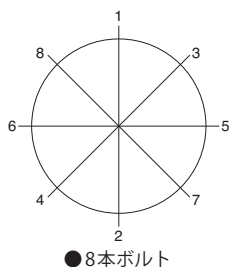
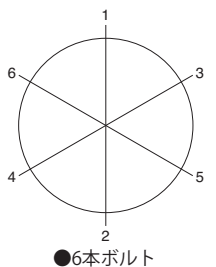


図16

※各スタンドのセッティングポジションは「ドラムセット完成図」を参照して下さい。

基本的なチューニング

基本的なチューニング（音合わせ）方法を、スネアドラムを例にとり、ご紹介します。まず、対角線上にあるテンションボルトをそれぞれ少しずつ締めながら、全体のピッチを上げていきます。リム（フープ）の近くのヘッド面をスティックなどで軽く叩き、音程（ピッチ）がバラついていたら、テンションボルトの締め具合を調節して、ピッチを整えます（図 17）。タムタムやバスドラムなどのチューニングも基本的には同じですが、一般的なロックサウンドをつくるには、裏側（ボトム）のヘッドのピッチを打面側（トップ）よりやや高めにしておくとよいでしょう。バスドラムの場合、ミュート（ヘッドの振動を抑えること）をすると音が締まって叩きやすくなったり、フロントヘッドに穴をあけると音のヌケがよくなる場合があります。一般的なミュートとしては、毛布などをバスドラムの中に入れてする方法があります。また、レモ・マッフルリングコントロールと呼ばれるミュートも効果的で人気があります。なお、ヘッドの穴あけには、レモ・ホールカットリングをご利用下さい。



チューニングポイント

新しいヘッドはドラムのエッジによくなじませてからチューニングすることをおすすめします。

Pearl

パール株式会社

〒276 - 0034 千葉県八千代市八千代台西10 - 2 - 1

電話：047-484-9111（代表）

〒276 - 0046 千葉県八千代市大和田新田593 - 1

電話：047-450-1113（テクニカルサポート）

<http://www.pearlgakki.com>

製品改良のため予告なくデザイン・仕様を変更する場合がありますので御了承下さい。

Printed in China

-0910-